四国森林管理局 森林技術・支援センター

次世代につなげる森林づくり

No. 7 － 2

平成２６年９月

囲いわなによる効率的なシカ捕獲試験

森林技術・支援センター

★これまでのシカ捕獲試験成果等

一、これまで小型囲いわなで捕獲できたシカのほとんどが四歳以下で、二歳までが全体の７割という結果になっています（図１）。

二、一つの小型囲いわなによる捕獲期間は、一頭目は81％が二週間以内に捕獲できています。しかし、二頭目を次の二週間以内に捕獲できた割合は52％に低下し、三十日以上要したケースも35％あるなど、二頭目以降の捕獲には長期間を要する傾向があることが分かりました（図３－１及び３－２）。

三、捕獲時期別では、二十四年は三～六月に多く捕獲できたものの、夏場の捕獲数は減少、十一月以降に再度増加しました。二十五年も、二十四年とほぼ同じ傾向で推移しました。（図２）。これらのことから、捕獲にあたっては、わなの設置個所や時期の違いによる影響が大きいものと推察されます。

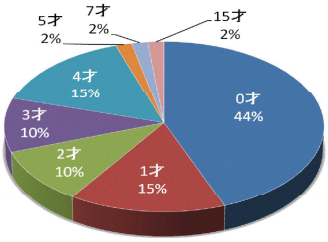

図1　捕獲個体の年齢別内訳

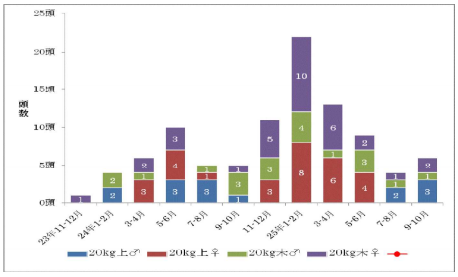

図2　時期別の捕獲頭数

★効果的なシカ捕獲に向けて

一、①事前に生息状況を把握
　事前にシカの通り道、足跡、糞、目撃情報等により、生息密度を把握する。
　②撤き餌を置いて誘引し、十分採食していることを確認する。
　①②を確認した上で小型囲いわなを設置する。

二、効果的な小型囲いわなの移動サイクル
　①一頭目が、設置後二週間程度で捕獲できず、撤き餌等もあまり採食されていない場合には小型囲いわなを別の場所に移動する。

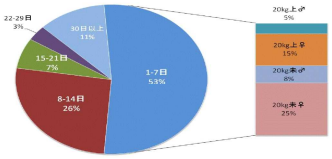

図3-1　設置後１頭目の捕獲に要した期間

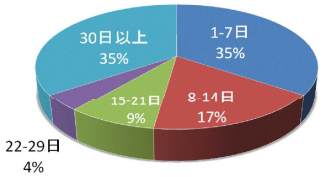

図 3-2　1頭目捕獲後、２頭目の捕獲に要した期間

p

②一頭目を捕獲後、二週間程度で捕獲できなくなっても二頭目が捕獲はどんどん採食されて撤き餌等も殆んど食べられていない場合には小型囲いわなを別の場所に移動する。

③出産時期が終わり、山に八月頃は、捕獲頭数が減少する時期となるため、小型囲いわなの移動サイクルを延長する等の柔軟な対応が必要になります。

★各署等からの情報提供等のお願い

現在、わなにビデオを設置し、仕留めるように寄ってきたシカを確実に考察しています。

現在、嶺北署、高知中部署、安芸署で小型囲いわなを使ったシカ捕獲が行われています。

各署とも捕獲効率向上に向けて色々な工夫をされていますので、良いアイデアは改良点等お気づきの点についてお知らせ下さい。

知らせ下さい。

また、これから小型囲いわなを使用しての捕獲を行い、習得したいなら講習会や現地説明等に当センターまでご連絡ください。

雑学

「毒キノコによる食中毒に注意」

●キノコ食中毒は、ツキヨタケ・クサウラベニタケ・カキシメジによるものが大半を占めています。

シイタケ

●シイタケとツキヨタケの見分け方：ツキヨタケは、ブナ林等の倒木に生え、傘の色はシイタケに似ているが、柄を割ると基部に紫黒色のシミがある。また、短い柄が傘の側方に付き、ヒダは発光し、シイタケとは臭いが異なるので注意しましょう。

ツキヨタケ